

要約

本論文の目的は、私がバレーボール競技人生の中で本番に力を発揮できずに多くの試合を終えてしまった経験から競技に対する不安がプレイにも影響するのではないかと考えた。そこで徳永幹雄の心理的競技能力診断を中学生から大学生までのバレーボール選手に行い、また私が所属している江戸川大学女子バレーボール部の部員 20 名にも心理的競技能力診断を行い中高生との違いやチーム内での数値の違いをみて部に還元していくことを目的とする。

方法は男女差、競技カテゴリー差、競技レベル差、経験年数差の 4 つの項目で対象者を比べる。5 因子 12 尺度に項目を分けさらに細かく分析していく。

結果としては競技カテゴリーでは一番高いチームに所属している選手は数値が高くでいた。競技レベルでも中学生と大学生を比べると大学生の方が高く、経験年数が多ければ数値が高い結果がでた。

江戸川大学の女子バレーボール部は小学生の頃からバレーボールを経験している選手が多く対象者の中高生に比べる平均して数値が高くでた。しかし江戸川大学の女子バレー部は関東リーグの 1 部を目指しており、さらに心理的競技能力の数値を伸ばして行くことが 1 部への挑戦の中で大きく影響してくるのではないかと考える。

先行研究での徳永幹雄がおこなった研究では国体に出場する選手でも一年間で心理的競技能力数値が大きく成長している例もあり、心理的競技能力は鍛えれば成長することがわかっている。江戸川大学の女子バレー部員も競技技術と同時に心理的競技能力も強化していくことが試合で勝利することへつながるのではないかと考える。